（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ののはな逗子駅前			
○保護者評価実施期間	2026年　9月　1日	～	2026年　9月　12日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	8人	（回答者数）	6人
○従業者評価実施期間	2026年　9月　1日	～	2026年　9月　12日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7人	（回答者数）	7人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　9月　24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門的支援を提供できる職員を複数配置し、ガイドライン(５領域含め)に関連させた専門的な支援の実施を行っています。 ・地域交流の場をたくさん設け、子どもを取り巻く地域全体での支援の確立に努めています。 ・保育園や幼稚園など関係機関との情報共有や移行支援に向け【関係機関連携】を実施しています。	・専門職が関わることで、個々の子どもに応じた多角的なアプローチが可能となり、より効果的な支援を行っています。 また、児童発達支援センターや相談支援員との連絡を密に行い、子どもが安心して過ごせるように検討しています。 ・日頃から地域の公園やまつり、イベントなどに参加し地域交流を深める活動を行っています。	・引き続き、【個別支援計画】に基づき【専門的支援計画】を作成し、一人一人に合った専門的なサポートを継続していきます。 ・ライフステージに沿った適切な移行支援へ向け、各関係機関との情報を密により良い支援の提供を行っていきます。
2	・保護者会を開催し情報共有の他【ペアレントトレーニング】を通し子どもの発達の状況や障害の特性を踏まえた子どもへのかかわり方を学ぶことで子どもの行動受容を目指しています。 ・保護者と密接に連携しながら、子どもたちの成長や日々の活動の様子を共有することを大切にしています。そのため、【提供記録の充実】に努め、保護者が安心して子どもを預けられる環境づくりを進めています。	・【ペアレントトレーニング】では『アンガーマネジメント』『褒め方のコツ』『ABA応用行動分析』などのテーマに沿って研修受講経験や実際の療育エピソードを交えイラストや表にまとめて書き出し、職員や保護者とのワークショップへ発展させることができました。実際に子育てのヒントになり成果に結び付いているとの評価をいただいております。 ・写真を活用した情報共有活動の様子を文章だけでなく【写真】で記録し、保護者向けの【オンライン共有ツール】にて提供することで、視覚的に子どもの成長を伝える工夫をしています。	保護者の悩みや相談から得た内容を参考に【ペアレントトレーニング】のテーマに発展さることで、より充実させた支援の提供に努めていきます。

3	・児童指導員や保育士(５年以上)に加え、リトミック講師・SSTスキルを持った職員などの専門職が在籍し、子どもの発達や特性に応じた支援を行っています。 ・専用システムやスプレッドシートを活用し職員間の円滑な情報共有を行い、子どもたちに一貫性のある支援を提供している。	定期的な会議や午前中の全体ミーティングを実施し、各職員が子ども一人ひとりの状況や支援方針を共有することで、チーム全体での支援の統一を図っています。	法人内の他事業所の取り組みも共有し、良い取り組みを積極的に取り入れていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所や放課後児童クラブとの交流が難しい。	保護者の意向でスムーズな交流が難しい問題がある。	必要に応じて保護者の意向に重点を置きながら、取り組んでいけるように検討中です。
2	市民祭り、町内のまつり、イベントなどへ参加し交流を行っているが、まだ地域住民を招待することは実施できていない。	保護者の意向でスムーズな交流が難しい問題がある。	・必要に応じて保護者の意向に重点を置きながら、取り組んでいけるように検討中です。 ・活動時間が長い長期休み期間に実施し、まずは関係機関の方や顔の知れた近所の方を招待することを検討中です。
3			